

「夏を告げる鳥 ホトトギス」

校長 村上俊二

校庭の前の八尾城の緑がとても色濃くなってきました。緑の山からホトトギスの声が聞こえてきます。「とっきょきよかきょく」と聞きなすこの声を聞くと、夏が来たことを感じます。

ホトトギスはカッコウやこの前から「ポンポン・ポンポン」という声をよく聞くツツドリと同じ仲間の夏鳥です。姿を見ることはなかなかありませんが、鳩より少し小さく腹の縞模様が特徴です。

ホトトギスの仲間は「托卵」といって、ウグイスなどの巣に卵を産んで代わりに育ててもらおうということをする鳥です。卵から孵ったホトトギスの雛は、ウグイスの卵をみんな巣から落とすしてしまします。ウグイスは、自分の卵から生まれた自分の子どもだと思って、自分より大きくなったホトトギスの雛に一生懸命えさを運んで育てます。どんな生き物も、厳しい自然の中で生きていくための知恵をもっているのですね。

「卵の花の におう垣根」

ホトトギス 早も来鳴きて

忍び音もらす 夏は来ぬ

学校の周りに広がる、豊かな神石の自然が大好きです。